

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

# Dogushi

胴串 -どくし- Winter 2015 Vol.8

## 特集 初演迫る! 人形劇「人魚姫」公演

制作: NPO法人いいた人形劇センター TEL.050-3583-3594 FAX.050-3583-3594 E-mail: itida-puppet@mits.janisor.jp  
Dogushi Vol.8 2015年1月発行 発行: 二人形劇のまち飯田「運営協議会」

### 掲示板 いいた人形劇センター からのお知らせ

#### 飯田発! プロと市民がつくる 人形劇「人魚姫」 チケット好評販売中!!

特集で紹介したいいいた人形劇センタープロデュースの人形劇「人魚姫」。プロと市民が一緒になってつくり上げた作品です。ご家族やご友人をお誘い合っぜひご覧ください。

- 日時: 3月6日(金) 19:30  
7日(土) 14:00-18:00  
8日(日) 11:00
- 会場: 飯田人形劇場
- 料金: 大人1,000円、中高大生500円、小学生以下300円
- 販売: いいた人形劇センター 飯田文化会館
- 託児: 3月7日(土) 14:00、8日(日) 11:00の2公演は託児あり。ご希望の方は2月26日(木)までにお申込みください。
- 問合せ: いいた人形劇センター TEL.050-3583-3594



View of IIDA

阿南町の早稲田地区で行われる「事の神送り」。疫病神を村の外に送り出し、1年間の無病息災と安全を願う小正月の儀式です。厄年を迎えた人や氏子らが伝統人形芝居の早稲田人形とともに行列をつくり「ハリセー、ヨイヤナッ」と掛け声をかけて地区内を練り歩きました。

### わかる!! 人形劇 用語

#### 『ゲネプロ』

本番の前に行う本番同様の通しリハーサルのこと。ドイツ語のGeneralprobe(ゲネラールプローベ)を略した言葉だが、更に略して「ゲネ」ともいう(どこまで略すんだ日本人)。ドイツ語の「General」は「総合」、「Probe」は「稽古」という意味。英語ではドレスリハ

ーサル(dress rehearsal)と言っている。日本でもこちらを使う人もいます。本番と全く同じ、という事は途中で間違いがあっても最後まで中断せずに進めるという事なので、キャストもスタッフも結構緊張する。これが妙に上手くいくと、初日でけけたりって事もあるので、そこそこ上手くいくくらいが理想かも。初日の前日に行う場合が多く、プログラムやマスメディア向けの写真撮影などに使ったりもする。また、公開ゲネ



プロという形で特定の人を招待したり、有料で観客を入れる場合もある。(人形芝居燕屋くすのき燕)

### 並木 さんぽ

現在、いいた人形劇センター主催のワークショップは複数あります。これらすべて“ものづくり”が内容の大半を占めるため、作業をする場所が必要となります。その場所が飯田文化会館の工作室。ストーブがあるものの冬は寒く、夏は酷暑。さらに特殊な工具や材料など参加者で共有するものが多いため手狭感も否めません。皆が場所や道具を譲り合いながらも、いろんなものが生まれていくのを見るにつけ、もう少し快適な環境を提供できればと日々思うのですが…。

次号は2015年4月発行予定です。(帆)

表紙イラスト: 井原千代子

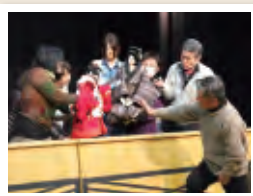
## 人形劇「人魚姫」ができるまでの一年半をプレイバック



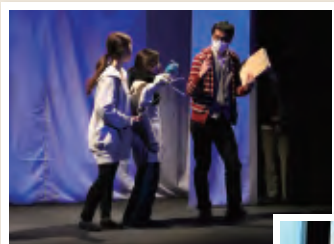
2013年11月  
インプロビゼーション  
(即興表現)レッスン



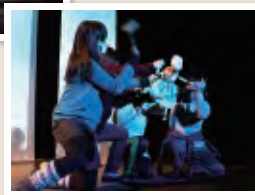
12月  
原作をもとに場面割り



2014年1月  
伝統人形芝居・三人遣いを体験



10月24日 稽古スタート  
11月から出演者はボカール  
レッスンと稽古、美術担当者は  
制作作業に専念  
12月から飯田人形劇場での  
舞台稽古



2月～10月  
参加者全員で人形・美術制作



6月末  
各場面をまと  
めた箱書きの  
読み合わせ



2015年1月9日 新年の初稽古 1月 参加者全員で人形・美術制作  
2月 稽古再開 3月初旬 ゲネプロ 3月6日～8日「人魚姫」上演

### わくわく イベントスケジュール

#### 2 FEB いいだ人形劇まつり りんごっこ劇場vol.11

2月8日(日) 10:30-13:30  
会場／飯田女子短期大学アカシアホール  
出演／地元人形劇団10団体  
料金／200円(3歳未満無料)

#### 飯田市公立保育園保育士人形劇研修会発表会

2月14日(土) 10:00-13:30  
会場／飯田市竜丘公民館  
出演／同研修会の4劇団  
料金200円(3歳未満無料)

#### ごま撮りアニメーション・パーフェクトコース

3月末まで 川本喜八郎人形美術館スタジオ  
4月の完成上映に向け、ふるさと飯田をPRするCM映像を制作中

#### 3 MAR 人形劇「人魚姫」公演

3月6日(金) 19:30、7日(土) 14:00-18:00、  
8日(日) 11:00  
会場／飯田人形劇場  
料金／大人1,000円、中高大生500円、  
小学生以下300円

#### 4月スタート! 「人形劇初級講座」受講者募集

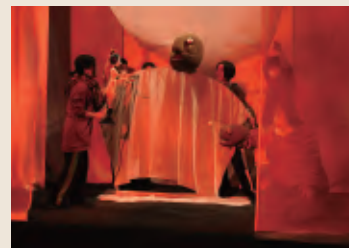
初心者を対象にした人形劇のワークショップを開催します。作品選び、人形づくり、稽古などを経て、8月のいいだ人形劇フェスタ上演を目指します。



## 初演迫る! 人形劇「人魚姫」公演

一昨年の11月にスタートした、いいだ人形劇センタープロデュースの人形劇ワークショップ。演出家くすのき燕氏、人形美術家吉澤亜由美氏を講師に迎え、飯田下伊那に住む10代から60代の男女20人が参加し、アンデルセン童話「人魚姫」の人形劇づくりに取り組んできました。一年以上もの歳月をかけ、3月にいよいよ初演を迎えます。

1月9日の夜7時、仕事を終えて一人、また一人と飯田人形劇場へ集まってくる受講者のみなさん。昨秋から始まった稽古ですが、キャスト全員がそろったのはこれが初めて。しかも新年初の稽古に「よろしくお願いします!」と、あいさつにも気合が入ります。「第一場。海の中、人魚姫の庭・誕生日のシーンからいきましよう!」。くすのき燕さんの掛け声でスタート。シーンに合わせて作った曲とともに緞帳が上がり、ステージ中央には人魚姫。続いて人魚姫の誕生日を祝う姉妹やアンコウたちが次々と登場します。さらにプロジェクションマッピングを効果的に用いて海の中の演出効果を高めます。

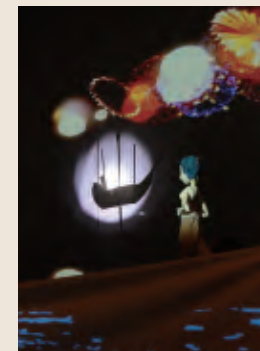


人魚姫に薬を与える魔女の不気味さを、さまざまな「モノ」を組み合わせて表現



美しい声とひきかえに人間の足を得た人魚姫が王子と再会するシーン

姫役の市原沙由理さんと小林由夏さん。主役の2人だけでなく、全員が限られた時間の中でセリフを覚えて各場面の復習を繰り返し、美術スタッフも制作の手を休めません。「音楽、照明、振付など多くの市民のみなさんにサポートしてもらい、飯田の皆さんと一年以上かけて舞台をつくってできました。ぜひご覧ください!」とくすのき燕さん。本番の幕が上がるまであと一カ月。ますます熱の入った稽古が続きます。



プロジェクションマッピングや影絵を用いた演出も楽しみ

飯田の言葉と言うと「おいでなんしょ」「おいなんよ」等は親しみがあるが、飯田の人の立場に立つての言葉である。迎えられる側はこれに対して何と言えはいいのかわ、飯田の人に聞いても良く分からない等と、のどかなことを言っていたら、世界の言語界はただならぬことになっていた。

あのイスラム国の電子新聞の記事の二ページ目の論説に、我々の目的の一つに奴隷制の復活があるとあった。これにはたまげた。奴隷制なんて人類の社会の在り方としては恥ずかしいものであると思っていたのに、それを堂々と良いことのように主張している。彼らはこれを現に実行しているのだ。例の女子高生200人誘拐や、占領した地域の女性たちを奴隷として高値で売り飛ばし、財源に充てているという。この一事を以つてもイスラム国の暗黒面はあきらかであろう。しかしこんなにはつきりした非人道的な思想が通用

### 「ロボット文明への疑問」

## 臍 人形たちのカーニバル

宇野小四郎「人形劇研究者」



宇野小四郎  
人形劇団ひとみ座創立メンバーで、(公財)現代人形劇センター元理事長。現在、銀の鈴舎主宰。人形劇の上演・演出・出版事業等、多岐にわたり活躍している。

する人々や地域が存在しているのだ。

では私たちの社会では奴隷制は完全に否定しているのだろうか。たとえば人の行う労働や作業を軽減させるために、自動機械やコンピュータ等が存在するが、それらは別に人間の形をしていなくても役に立てば好い筈だ。だが人間の形をしたロボットにそれを行わせることは盛んに行われている。ここには相手がロボットならば人間扱いしないことが当たり前と云う考えがチラッと存在していると思われる。人格を持たない便利な道具への欲求が、人間型のロボットを競って作らせている。どだいロボットと言ふ言葉を作ったチエコの作家チャベックも、人間に替わって地下の都市で働く人造人間であると提示しているこのロボットを、人間の友だちと考える人もいるが、逆に人類滅亡に向かう道筋だという人もいる。

(つづく)

### Library Cafe

### 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑧

『30ans de festival Charleville-Mezieres 1991』(フェスティバルの30年 シャルルビルメジエール1991)

シャルルビルの世界人形劇フェス30年記念誌。1961年から始まったこのフェスは、3年ごと開催(現在2年ごと)で、飯田とシャルルビルのフェスが共に第10回目に重なった1988年には両市が友好都市を結んだ。その10回目までの様子を写真で構成した内容。日本の招待公演、文楽、乙女文楽(ひとみ座)、人形劇・トロッコの上上演写真と、竹田扇之助師の75年公演(フェスの年ではない)の手書文が載る。97年には大規模な日本の展示が行われ今田や黒田の人形も並んだ。以降は公演、展示等も飯田に限らず意外に日本との関係がまだまだ薄いと感じる。実はこのフェスを地元アマチュア人形劇団が主催していることもあまり知られていない。第18回は2015年9月18日から10日間開催予定。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)

※発行元は、このフェスを主催しているアマチュア人形劇団で「ボロ布の小さなコメディアン」の意



Compagnie des Petits Comediens de Chiffons 発行 1991年 190頁



各自が思う「ふるさと飯田」を提案することからワークショップがスタート。リンゴ、花火、獅子舞、人形劇…100を超えるキーワードが出されました

## ごま撮りでごま撮り飯田のこま撮り

飯田をPRするためのCMをごま撮りアニメーションの手法で撮影するワークショップが開催されているとの情報をキャッチ。さっそく「ゼンバ」をおさえるべく、直行しました！

飯田下伊那に住む高校生 社会人11人が「飯田」から連想するキーワードをもとに各自撮影したいテーマを決めてストーリーや絵コンテを作成。その中から一つを選び、参加者全員で取り組んでいるのは「飯田の水引」をテーマにした作品。祖母が嫁ぐ孫娘に水引で作ったティアラを贈る物語です。作品の提案者で監督を務める伊藤緑さんは「映像を通して飯田の人の温かさを伝えたい。人々が持つ細やかなさを込めた作品になれば」と話します。

撮影に入るまでにはさまざまなモノの制作が必要不可欠。人形や衣装、小道具類はもちろん、部屋のセット、電化製品、装飾品、屋外シーンの背景など、実物のほぼ1/5スケールで寸法を出し、一つ一つすべてを作ります。「本物そっくりのミニチュアではなく、そこに存在しているかのような生活感のある仕上がりにするのが難しい」と口をそろえる参加者のみなさん。

1月半ばにクランクインし、絵コンテと撮影用タイムシートを見ながら1コマ1コマ慎重に撮影が行われていきます。3月末に撮影を終え、4月には完成披露上映会が予定されています。



祖母が孫娘へ贈るティアラを作る居間のセットの大枠ができたところで、畳、机、電気スタンド、茶筆筒などを置いてみる参加者。全員で分担しての作業が続きます

突撃!!

## 人形劇のゼンバ Part8



孫娘の人形をつくるための図面に水引の結びをあてて色やサイズを考えます



「ごま撮りえいが こまねこ」などを手掛けるアニメーターの峰岸裕和さん(写真右)、カメラマンの杉木完さんが講師を務めます



撮影に使用する人形も参加者が一つ一つ手作り。微妙な動きやポーズがとれるよう手足や胴に鉛線を入れたり、アップの撮影に耐えられるよう細かい部分にまで気を配って制作します



オオカミ役・小林桜子さん、赤ずきん役・福澤律香さん、おばあさん役・牧島亜美さん、猟師役・水野あゆみさん、顧問・小島正宏先生(写真左から)

### 飯田東中学校人形劇部りんご劇団

メンバーは2年生4人と1年生1人の女子5人。昨年4月から制作に取り掛かった「赤ずきん」を8月のいい大人形劇フェスタ、9月には校内学芸会、10月は東野地区文化祭と続けて上演しました。例年であれば新年度まで部活動はひと休み、といったところですが「赤ずきん」の評判がよく、2月に行われる「いい大人形劇まつり



りんごこ劇場」に出演することに。「もう一度上演できてうれしいです。台本をしっかり読み直して、さらによくなるように練習したい」と意気込む部長の福澤律香さん同様、全員の顔にはやる気のみがみえています。人形劇部に入った理由は「小学校の時に人形劇を経験したから」「美術部だったけれど手伝いで係わるようになってそのまま」「小さい子どもを楽しませたくて」などそれぞれですが、演じることが楽しくなってきた様子。「みんないい表情をしてやっています」と顧問の小島正宏先生。4月からは学年が一つ上がり、みんなで仲良くやっていくことももちろん、新1年生が仲間入りをしてくれることを心待ちにしています。



誰もが知っている「赤ずきん」だからこそ、演出にはひと工夫あるそう。赤ずきんがオオカミと対面するシーン注目です



飯田市龍江「今田人形の館」を訪ね、今田人形を撮影するクリストフ・ワゾーさん

## 「人形師を撮影する」の巻

いいだ再発見

人形劇を支援している世界の都市が集い、国際的なネットワークを広げるための交流機関「AVIAMA」(人形劇の友好都市国際協会)。現在、15カ国22都市が加盟して各国がさまざまな事業を提案し活動を行っています。ウニマ(国際人形劇連盟)の事務局が置かれているフランスのシャルビルメジェール市はもちろん、飯田市も加盟しています。

平成27年には「AVIAMA」の事業として、各国の人形劇師を写真で紹介する「大型写真パネル展」がチェコ共和国ピルゼンを皮切りに世界を巡回することに。このほどシャル



飯田市上郷に受け継がれてきた「黒田人形浄瑠璃」を伝習する高陵中学校黒田人形部の生徒たちとも交流を図りました。今回の滞在で撮影し、チェコ共和国ピルゼンに展示予定の写真6点が飯田市川本喜八郎人形美術館に展示されます(2月1日～28日)。

ビルメジェールから写真家のクリストフ・ワゾーさんが飯田を訪れました。約1週間の滞在では飯田市に伝承される人形浄瑠璃、地元を拠点に活動するプロのパフォーマー、市民のアマチュア劇団などを撮影したほか、伝統芸能の宝庫であるこの地の文化に触れ、地域の人々との交流も。「現代と伝統とが共存していることが印象的。飯田で目にしたすべてが好きになり、出会った人すべてが魅力的」と話してくれました。

### 全人協通信 専門人形劇団事情③

## 「ひいきのひきたおし」

専務理事 永野むつみ

三学期は学校や幼稚園・保育園の観劇会シーズンです。しかし開演前の主催者のご挨拶に戸惑うことがあります。たとえばこんな具合です。

「今日は愉しみにしていた人形劇の日です。人形劇のお兄さんとお姉さんが来てくれました。でもみんながうるさくすると人形たちがびびりして怒って帰ってしまいます。ですから口にチャック。立つてもいけません。隣のお友だちに話しかけたりしてもいけません。でも愉しいときは笑っています。手を叩いてもいいです。悲しいときは泣いてもいいです。さあこれから始まりです。では人形劇のお兄さん、お姉さんお願いします。」

子ども劇場やおやこ劇場などの観劇団体入会者を除けば、親御さんに余程の関心がない限り学校・幼稚園・保育園での観劇会が唯一の観劇体験という人が多い我が国。専門人形劇団の大事な仕事の一つです。どの劇団も張り切って出かけています。小さな人たちの豊かな育ちのために「年に一回は生の舞台鑑賞に取り組むべし」という決まりができないだろうかと思念しているのは私だけではないでしょう。

そしてそれは人形劇そのものだけではなく、誰かが誰かに指図をされたり禁止されたり許可されたりする言葉が一つも行き交わらない自由で伸びやかな空間と時間でありたい、つまり芸術的空間としての体験として届けたいと願っているのです。



人形劇の上演会場にて。楽しければ笑い、悲しければ泣く。子どもたちの豊かな表情が会場に広がります

